

【参考文献】

- 1) 土木学会：海岸施設設計便覧，土木学会，pp.301～305，2000.
- 2) 沿岸開発技術研究センター：沿岸波浪・海象観測データの解析・活用に関する解説書，181p，2000.
- 3) 高山知司監修，海象観測データの解析・活用に関する研究会編：波を観る－波浪、津波、高潮、GPS 海洋ブイ、沿岸波浪計－，一般財団法人沿岸技術研究センター，318p，2013.
- 4) Borgman, L. E.: Risk criteria, J. Wat. & Harb. Div., Proc. ASCE., Vol. 89, No. WW3, pp.1-35, 1963.
- 5) 平山克也，加島寛章，佐井 稔，成毛辰徳：うねりによる高波の発生確率とその地域特性に関する考察，土木学会論文集B2(海岸工学) Vol.71 No.2, 土木学会，pp.I_85～I_90, 2015.
- 6) 松藤絵里子，高山知司，宮田正史，平山克也，河合弘泰，鈴木善光，宇都宮好博，福永勇介：うねり性波浪を考慮した設計波の設定法について，土木学会論文集B2(海岸工学) Vol.73 No.2, pp.I_1153～I_1158, 2017.
- 7) 平山克也，南靖彦，奥野光洋，峯村浩治，河合弘泰，平石哲也：2004年に来襲した台風による波浪災害事例，港湾空港技術研究所資料 No.1101, 42p, 2005.
- 8) 高田悦子，諸星一信，平石哲也，永井紀彦，竹村慎治：我が国沿岸の波浪外力分布，国土技術政策総合研究所報告，No.88, 2003.
- 9) Goda, Y.: Revisiting Wilson's formula for simplified wind-wave prediction, J. Waterway, Port, Coastal and Ocean Eng., ASCE, Vol. 129, No.2, pp.93-95, 2003.
- 10) 広瀬宗一，高橋智晴：沿岸波浪の出現特性(その2)，第30回海岸工学講演会論文集，pp.168～172, 1983.
- 11) Gringorten, I.I.: A plotting rule for extreme probability paper, J.Geophysical Res., Vol.68, No.3, pp.813～814, 1963.
- 12) Petruaskas, C. and P.M.Aagaard: Extrapolation of historical storm data for estimating design wave heights, Preprints 2nd OTC, No.1190. 1970.
- 13) 合田良実：極値統計におけるプロットング公式ならびに推定値の信頼区間に関する数値的検討，港湾技術研究所報告 第27巻 第1号，pp.31～92, 1988.
- 14) 合田良実：耐波工学(港湾・海岸構造物の耐波設計)，鹿島出版会，第13章 pp.327～379, 2008.
- 15) 合田良実，小長谷修，永井紀彦：極値波浪統計の母分布関数に関する実証的研究，海岸工学論文集 第45巻，土木学会，pp.211～215, 1998.
- 15-1) 文部科学省及び気象庁：日本の気候変動2020，大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書(詳細版)，263p, 2020.
- 15-2) 本多和彦・成田裕也・岡本侃大・百海郁弥・平山克也・高川智博・森 信人：3大湾内の港湾における高潮・波浪への気候変動の影響評価，国土技術政策総合研究所資料，No.1266, 132p, 2024.
- 15-3) 野村明弘・佐藤典之・石川浩希・早川哲也・岩崎慎介・大塚淳一・森信人・渡部靖憲：d4PDFを用いた設計波高の将来変化の効率的な推定手法，土木学会論文集B2(海岸工学)，Vol.78, No.2, pp.I_937-I_942, 2022.
- 15-4) 本多和彦・成田裕也・平山克也・高川智博・森信人：日本沿岸の主要港湾における高潮・波浪への気候変動の影響評価，国土技術政策総合研究所資料，(2024.08 予定).
- 15-5) 小林怜夏，竹信正寛，本多和彦，蒔苗嘉人，村田誠，気候変動適応策を踏まえた防波堤の設計手法に関する検討，国土技術政策総合研究所資料，No.1281, 2024(予定).
- 15-6) 岡本侃大・本多和彦・百海郁弥：ブートストラップ法を用いた高潮・高波の偶然的な不確実性の評価，国土技術政策総合研究所研究報告，No.71, 19p, 2023.
- 15-7) 岡本侃大・百海郁弥・本多和彦：将来気候における高潮・高波の不確実性の評価，国土技術政策総合研究所資料，No.1248, 51p, 2023.
- 16) 宇都宮好博，宮田正史，高山知司，河合弘泰，平山克也，鈴木善光，君塚政文，福永勇介：シナリオ台風に基づく最大クラス高潮の設定法について，土木学会論文集B2(海岸工学) Vol.73 No.2, pp.I_247-I_252, 2017.
- 16-1) 文部科学省，気象庁気象研究所，東京大学大気海洋研究所，京都大学防災研究所，国立環境研究所，筑波大学，海洋研究開発機構：地球温暖化対策に資するアンサンブル気候予測データベース(d4PDF)，<https://www.miroc-gcm.jp/d4PDF/index.html>
- 16-2) 文部科学省，気象庁：気候予測データセット(DS2022)，<https://diasjp.net/ds2022/>
- 17) 永井紀彦，小川英明：全国港湾海洋波浪観測年報(NOWPHAS 2002)，港湾空港技術研究所資料 No.1069, pp.336, 2004.
- 18) 永井紀彦：全国港湾海洋波浪観測30か年統計(NOWPHAS 1970-1999)，港湾空港技術研究所資料 No.1035, 2002.
- 19) プレストレストコンクリート港湾構造物設計マニュアル，運輸省港湾局，1987.
- 20) 財団法人沿岸技術研究センター：港内長周期波影響評価マニュアル，沿岸技術ライブラリー No.21, pp.付録B-2～付録B-9, 2004.
- 20-1) 一般財団法人沿岸技術研究センター：新しい波浪推算・設計波算定マニュアル～浅海波浪推算と準沖波の導入～，沿岸技術ライブラリー No.60, 93p., 2024.
- 20-2) 平山克也・川口浩二・田中陽二・樋口直人・田所篤博・金子大介・伊藤裕哉・佐々木誠：浅海域で設定する新しい沖波(準沖波)の提案，土木学会論文集B3(海洋開発)，Vol.77, No.2, pp.I_727-I_732, 2021.
- 20-3) 平山克也・森谷拓実・濱野有貴・田中陽二：東北地方沿岸の確率準沖波諸元から逆推定される確率沖波諸元の妥当性に関する検討，土木学会論文集，Vol.79, No.18, 23-18165, 2023.
- 20-4) 森谷拓実・平山克也：準沖波に対する沖波の簡易逆推定手法の見直しと実海域における適用性の検証，土木学会論文集，Vol.79, No.18, 23-18162, 2023.
- 20-5) 平山克也・森谷拓実：実用的な沖波諸元の設定方法に関する基礎的研究，港空研報告，Vol.62, No.3, pp.90-141, 2023.

- 21) Goda, Y., "Wave forces on a vertical circular : Experiments and proposed method of wave force computation", Report of the Port and Harbour Research Institute, No. 8, p24, 1964.
- 22) 合田良実, 永井康平: 波浪の統計的性質に関する調査・解析, 港湾技術研究所報告, Vol. 13, No. 1, pp. 3~37, 1974.
- 23) 土木学会: 海岸施設設計便覧, 土木学会, pp. 31~68, 2000.
- 24) 高山知司, 池田直太, 平石哲也: 砕波および反射を考慮した波浪変形計算, 港湾技術研究所報告 Vol. 30 No. 1, pp. 21~67, 1991.
- 25) 土木学会海岸工学委員会: 海岸波動, 土木学会, pp. 46~50, 1994.
- 26) 間瀬 肇, 高山知司, 北野利一, 森安里夫: 位相平均波浪変形解析モデルへの回折効果のモデリングと適用性に関する研究, 海岸工学論文集 第46巻, 土木学会, pp. 66~70, 1999.
- 27) 平山克也: 非線形不規則波を用いた数値計算の港湾設計への活用に関する研究, 港湾空港技術研究所資料 No. 1036, 162p, 2002.
- 28) 高山知司, 藤井久: 信頼性理論による防波堤の滑動安定性に関する理論的検討, 港湾技術研究所報告 Vol. 30 No. 4, pp. 35~64, 1991.
- 29) 平石哲也: 多方向不規則波の発生とその応用に関する研究, 港湾技研資料 No. 723, 176p, 1992.
- 30) 高山知司, 平石哲也: 数値計算と現地観測による港内副振動特性の検討, 港湾技研資料 No. 636, 70p, 1988.
- 31) 財団法人沿岸開発技術研究センター: 数値波動水路(CADMAS-SURF)の研究・開発: 数値波動水路の耐波設計への適用に関する研究会報告書, 沿岸開発技術ライブラリー No. 12, 457p, 2001.
- 32) 平山克也, 峯村浩治: 河口部における波高増幅率の簡易算定法, 海洋開発論文集 Vol. 21, pp. 313~318, 2005.
- 33) 土木学会: 海岸施設設計便覧, 土木学会, pp. 9~25, 2000.
- 34) 合田良実: 耐波工学(港湾構造物の耐波設計), 鹿島出版会, pp. 11~18, 2008.
- 35) 同上, pp. 20.
- 36) 同上, pp. 21.
- 37) 谷本勝利, 木村克俊, Antonis Paulo dos Santos Pinto: 二山型スペクトル波による混成堤に働く波力と設計周期の算定法, 港湾技術研究所報告 Vol. 25 No. 2, pp. 3~25, 1986.
- 38) 合田良実, 鈴木康正: 光易型方向スペクトルによる不規則波の屈折・回折計算, 港湾技研資料 No. 230, 45p, 1975.
- 39) 橋本典明: 海洋波の方向スペクトルの推定法に関する研究, 港湾技研資料 No. 722, pp. 118, 1992.
- 40) 合田良実: 共分散法を用いた波向推定方式の数値的検討, 港湾技術研究所報告 第20巻 第3号, pp. 53~92, 1981.
- 41) Sverdrup, H.U. and Munk, W.H.: Wind, sea, and swell; theory of relations for forecasting, U.S. Navy Hydrographic Office, H.O. Pub. 601, pp. 1~44, 1947.
- 42) Bretschneider, C.L.: Revised wave forecasting relationships, Proc. 2nd Conf. Coastal Engg., ASCE, 1952.
- 43) Bretschneider, C.L.: Revisions in wave forecasting, Deep and shallow water, Proc. 6th Conf. Coastal Engg., ASCE, pp. 30~67, 1958.
- 44) Wilson, B.W.: Numerical prediction of ocean waves in the North Atlantic for December, 1959, Deut. Hydrogr. Zeit, Jahrgang 18, Heft 3, pp. 114~130, 1965.
- 45) 土木学会: 水理公式集, p. 508, 1971.
- 46) 光易恒: 風波のスペクトルの発達(2) - 有限吹送距離における風波のスペクトルの形について -, 第17回海岸工学講演会論文集, pp. 1~7, 1970.
- 47) Wilson, B.W.: Graphical approach to the forecasting of waves in moving fetches, Tech. Memo. No. 73, Beach Erosion Board, U.S. Army Corps of Engrs., 1955.
- 48) 井島武士: 波浪の数値予測, 土木学会, 1968年度水工夏期研修会講義集A, pp. 2-1~2-30, 1968.
- 49) 堀川清司, 西村仁嗣, 小沢保臣, 宮本幸始: 別府湾における台風時の波浪推算について, 第18回海岸工学講演会論文集, 土木学会, pp. 7~12, 1971.
- 50) Bretschneider, C.L.: Decay of ocean waves, Fundamentals of ocean engineering-Part 8b, Ocean Industry, pp. 45~50, 1968.
- 51) 堀川清司: [新編] 海岸工学, 東京大学出版会, pp. 84~88, 1991.
- 52) Isozaki, I. and Uji, T.: Numerical prediction of ocean wind waves, 気象研究所報告 第24巻 第2号, pp. 207~231, 1973.
- 53) Uji, T.: A coupled discrete wave model MRI-II, J. Oceanogr. Soc. Japan, 40, pp. 303~313, 1984.
- 54) 宇治豪, 上野耕治: 波浪モデルMRI-II New, 気象研究所海洋研究部, p. 118, 1987.
- 55) 上野耕治, 高野洋雄: 現業用第3世代波浪推算モデルMRI-3, 1998年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, p. 153, 1998.
- 56) Inoue, T.: On the growth of the spectrum of a wind generated sea according to a modified Miles-Philips mechanism and its application to wave forecasting, Dept. Meteorol. and Oceanogr., New York Univ., TR-67-5, p. 74, 1967.
- 57) 山口正隆, 土屋義人: 有限風域場における波浪の数値予知法, 第26回海岸工学講演会論文集, pp. 96~100, 1979.
- 58) Joseph, P. S. Kawai, S. and Toba, Y.: Ocean wave prediction by a hybrid model-combination of single-parameterized wind waves with spectrally treated swells, Sci. Rept. Tohoku Univ., Ser. 5, Geophys., Vol. 28, No. 1, pp. 27~45, 1981.
- 59) The WAMDI Group: The WAM model - A third generation ocean wave prediction model, J. Phys. Oceanogr., 18, pp. 1775~1810, 1988.
- 60) 山口正隆, 畑田佳男, 宇都宮好博: 一点を対象とした浅海波浪推算モデルとその適用性, 土木学会論文集 381/II-7, pp. 151~160, 1987.

- 61) Hasselmann, S and K. Hasselmann : Computations and parameterizations of the nonlinear energy transfer in a gravity wave spectrum, Part I, A new method for efficient computations of the exact nonlinear transfer integral, J. Phys. Oceanogr., 15, pp.1369~1377, 1985.
- 62) Janssen, P.A.E.M. : Wave-induced stress and the drag of air flow over sea wave, Journal of Physical Oceanography, vol.19, pp.745~754, 1989.
- 63) Janssen, P.A.E.M. : Quasi-linear theory of wind wave generation applied to wave forecasting, Journal of Physical Oceanography, vol.21, pp.1631~1642, 1991.
- 64) Hasselmann, K. : On the non-linear energy transfer in a gravity-wave spectrum, Part 1, General theory, J. Fluid Mech., 12, pp.481~500, 1962.
- 65) Booij, N., Holthuijsen, L. H. and R. C. Ris : The SWAN wave model for shallow water, Proceeding of 25th International Conference on Coastal Engineering, vol.1, pp. 668~676, 1996.
- 66) Tolman, H. L., and D. V. Chalikov : Source terms in a third-generation wind wave model, J. Phys. Oceanogr., 26, pp.2497~2518, 1996.
- 67) Tolman, H. and the WAVEWATCH III Development Group : User manual and system documentation of WAVEWATCH III version 4.18, 2014.
- 68) 合田良実, 数値シミュレーションによる波浪の標準スペクトルと統計的性質, 海岸工学論文集 第34巻, pp.131~135, 1987.
- 69) 土木学会 : 海岸施設設計便覧, 土木学会, pp.33~36, 2000.
- 70) 合田良実 : 耐波工学 (港湾・海岸構造物の耐波設計), 鹿島出版会, pp.43~45, 2008.
- 71) 高山知司 : 波の回折と港内波高分布に関する研究, 港湾技研資料No.367, p.140, 1981.
- 72) 土木学会海岸工学委員会 : 海岸波動, 土木学会, pp.27~37, 1994.
- 73) 永井康平, 田村勇, 豊島照雄 : 防波堤による不規則波の回折に関する一考察, 土木学会第30回年次学術講演集, II-12, pp.22-23, 1975.
- 74) 合田良実 : 耐波工学 (港湾・海岸構造物の耐波設計), 鹿島出版会, pp.49~59, 2008.
- 75) 佐藤昭二, 合田良実 : 海岸・港湾, わかり易い土木講座, 彰国社, pp.72~75, 1971.
- 76) 窪泰浩, 小竹康夫, 磯部雅彦, 渡辺晃 : 非定常緩勾配不規則波動方程式について, 海岸工学論文集 第38巻, pp.46~50, 1991.
- 77) 平石哲也, 上原功, 鈴木康正 : ブシネスク方程式を用いた波浪変形計算法の適用性, 港湾技研資料No.814, p.22, 1995.
- 78) 灘岡和夫, 中川康之 : 不規則波動シミュレーションのための強分散波動方程式のその基本特性の検討, 土木学会論文集 No.467/II-23, pp.83~92, 1993.
- 79) 土木学会海岸工学委員会 : 海岸波動, 土木学会, pp.15~118, 1994.
- 80) 平山克也 : ブシネスクモデルによる波浪変形計算の精度と現地適用性, 2007年度 (第43回) 水工学に関する夏期研修会テキスト, B-7, 土木学会水工学委員会・海岸工学委員会, 20p, 2017.
- 81) 西村一男, 加藤寛, 井上純一, 中村勇, 村田進 : 島周辺の波高分布に関する数値シミュレーションと水理模型実験, 第27回海岸工学講演会論文集, pp.65~69, 1980.
- 82) 合田良実 : 耐波工学 (港湾・海岸構造物の耐波設計), 鹿島出版会, p.83, 2008.
- 83) 平山克也 : ブシネスクモデルによる任意反射境界処理法を用いた非線形部分重複波の計算, 港湾空港技術研究所報告 第40巻 第4号, pp.3~48, 2001.
- 84) 合田良実, 鈴木康正, 岸良安治, 菊池治 : 不規則波実験における入・反射波の分離推定法, 港湾技研資料 No.248, p.24, 1976.
- 85) 榎木亨監修 : 環境圏の新しい海岸工学, フジ・テクノシステム, pp.251~252, 1999.
- 86) 同上, pp.253.
- 87) 小舟浩治, 大里睦男 : 防波堤隅角部付近の波高分布に関する研究, 港湾技術研究所報告 Vol.15 No.2, 1976.
- 88) 伊藤喜行, 谷本勝利 : 混成防波堤の蛇行災害, 港湾技研資料 No.112, 1971.
- 89) 合田良実, 吉村知司 : 海中に孤立した巨大構造物に働く波力の計算, 港湾技術研究所報告 Vol.10 No.4, pp.3~52, 1971.
- 90) 首藤伸夫 : 非線形長波の変形—水路幅, 水深の変化する場合—, 第21回海岸工学講演会論文集, pp.57~64, 1974.
- 91) 合田良実 : 砕波指標の整理について, 土木学会論文報告集 第180号, pp.39~49, 1970.
- 92) 合田良実 : 工学的応用のための砕波統計量データの再整理, 海岸工学論文集 第54巻, 土木学会, pp.81~85, 2007.
- 93) 合田良実 : 浅海域における波浪の砕波変形, 港湾技術研究所報告 Vol.14 No.3, 1975.
- 94) 合田良実 : 耐波工学 (港湾・海岸構造物の耐波設計), 鹿島出版会, pp.73, 2008.
- 95) 土木学会 : 海岸施設設計便覧, 土木学会, pp.90, 2000.
- 96) 高山知司, 神山 豊, 菊池 治 : リーフ上の波の変形に関する研究, 港湾技研資料 No.278, pp.32, 1977.
- 97) 江頭和彦, 福田 功, 岸良安治, 西村達郎 : リーフによる波浪変形の現地観測, 第32回海岸工学論文集, pp.90~94, 1985.
- 98) 合田良実 : 段階的砕波係数を用いた不規則波浪変形計算モデルの改良, 海洋開発論文集 第19巻, pp.141~146, 2003.
- 99) 宇野喜之, 平山克也 : 乱れの生成・逸散過程に着目した砕波モデルの計算精度に関する考察, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.68 No.2, pp.I_026~I_030, 2012.
- 100) 平山克也, 相田康洋 : 長いリーフ上でのサーフビート波高の分布特性に関する数値的考察, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.72 No.2, pp.I_330~I_335, 2016.

- 101) 玉田 崇, 間瀬 肇, 安田誠宏: 複合断面に対する波の不規則性を考慮した打上げ高算定法に関する研究, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.B2-65 No.1, pp.936~940, 2009.
- 102) Mase H.: Random wave runup height on gentle slope, J. Waterway, Port, Coastal and Ocean engineering, ASCE, Vol. 118, No. 5, pp.649~664, 1989.
- 103) 間瀬肇, T.S.Hedges M.Shareef, 永瀬俊二: 波の打上げを考慮した傾斜護岸に対する越波流量算定法に関する研究, 海岸工学論文集 第50巻, pp.636~640, 2003.
- 104) Van der meer, J.W. and C.M.Stam: wave runup on smooth and rock slopes of coastal structures, J. Waterway, Port, Coastal and Ocean Engineering, ASCE, Vol. 118, No. 5, pp.534~550, 1992.
- 105) Saville, T. Jr. : Wave run-up on composite slopes, Proc. 6th Conf. on Coastal Eng., pp.691~699, 1958.
- 106) 中村充, 佐々木康雄, 山田譲二: 複合断面における波の打ち上げに関する研究, 第19回海岸工学講演会講演集, pp.309~312, 1972.
- 107) 細井正延, 三井宏: 砕波点より陸側にある海岸堤防への波のうちあげ, 第9回海岸工学講演会講演集, pp.143~148, 1962.
- 108) 細井正延, 首藤伸夫: 堤防に斜めに入射する場合のうちあげ高について, 第9回海岸工学講演会講演集, pp.149~152, 1962.
- 109) 桜庭雅明, 榊山勉, 有川太郎, 井上温人, 中平順一, 和田匡央: 波の遡上に対する CADMAS-SURF の適用性の検証, 海洋開発論文集 第24巻, pp.867~872, 2008.
- 110) 土木学会: 数値波動水槽—砕波波浪計算の深化と耐波設計の革新を目指して—, pp.43~53, 2012.
- 111) 桜庭雅明, 弘崎聡, 榎山和男: CIVA/Level set法による越波・遡上の数値解析, 海岸工学論文集 第51巻, pp.36~40, 2004.
- 112) 平山克也, 春尾和人, 宮里一郎: ブシネスクモデルを用いて算定したリーフ上護岸の設計諸元に関する考察, 港湾空港技術研究所報告 第48巻 第3号, pp.23~74, 2009.
- 113) 平山克也, 森内政弘, 伍井稔, 加地智彦, 玉田崇: ブシネスクモデルを用いた海岸護岸における護岸越波量の推定, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.68 No.4, pp.I_780~I_785, 2012.
- 114) 本田隆英, 伊藤一教: 不規則波による越波を対象とした数値波動水路の適用性に関する研究, 海岸工学論文集 第55巻, pp.816~820, 2008.
- 115) 合田良実, 岸良安治, 神山豊: 不規則波による防波護岸の越波流量に関する実験的研究, 港湾技術研究所報告 Vol.14 No.4, pp.3~44, 1975.
- 116) 合田良実, 岸良安治: 不規則波による低天端型護岸の越波特性実験, 港湾技研資料No.242, p.28, 1976.
- 116-1) 阿部洋士, 高橋武志, 鈴木高二朗, 中澤祐飛: 改良型護岸の越波流量低減効果と CADMAS-SURF の再現性の検証, 港湾空港技術研究所報告, Vol.62, No.3, pp.3-49, 2023.
- 117) 高山知司, 永井紀彦, 西田一彦: 各種消波工による越波流量の減少効果, 港湾技術研究所報告 Vol.21 No.2, pp.151~205, 1982.
- 118) 高山知司, 永井紀彦, 西田一彦, 関口忠志: 斜め入射不規則波を用いた護岸の越波特性実験, 海岸工学論文集 第31巻, pp.542~546, 1984.
- 119) 平石哲也, 望月徳雄, 佐藤一央, 丸山晴広, 金澤剛, 榎本達也: 護岸越波流量における波の多方向性の影響, 港湾技術研究所報告 Vol.35 No.1, pp.39~64, 1996.
- 119-1) Hirayama, K. : A simple estimation of wave overtopping rate on revetment taking the varieties of height and setback distance of parapet into account, *Proceedings of the Thirty-first International Ocean and Polar Engineering Conference (ISOPE-2021)*, pp.2278-2283, 2021.
- 120) 玉田崇, 井上雅夫・手塚崇雄: 緩傾斜護岸の越波流量算定図とその越波低減効果に関する実験的研究, 海岸工学論文集 第49巻, pp.641~645, 2002.
- 121) 玉田崇, 間瀬肇, 安田誠宏: 波の打上げを考慮した越波流量算定法の提案, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.66 No.1, pp.926~930, 2010.
- 122) 間瀬肇, 玉田崇, 安田誠宏, 川崎浩司: 打上げ・越波統合算定モデルの精度検討, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.72 No.1, pp.83~88, 2016.
- 123) 玉田崇, 間瀬肇, 安田誠宏: CLASH データセットに基づく打上げ・越波統合算定モデルの直立護岸への拡張, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.71 No.2, pp.I_847~I_852, 2015.
- 124) CLASH project: <http://www.clash.ugent.be/>, presented by De Rouck, J., H. Verhaeghe and J. Geeraets, Crest level assessment of coastal structures – General overview, J. Coastal Eng., Vol. 56, Issue 2, pp.99~107, 2009.
- 125) EurOtop: European manual for the assessment of wave overtopping, T. Pullen, N. W. H. Allsop, T. Bruce, A. Kortenhaus, H. Schuttrumpf and J. W. Van der Meer eds., HR Wallingford, Wallingford, U.K., 2007.
- 126) 合田良実: CLASH データベースに基づく統一的越波流量推定式の提案, 海洋開発論文集 第24巻, pp.939~944, 2008.
- 127) 宮島正吾, 小椋進, 大橋幸彦, 森川高徳, 奥田純生: 波返し付き傾斜護岸の越波流量特性に関する実験的研究, 海岸工学論文集 第51巻, pp.636~640, 2004.
- 128) 合田良実: 防波護岸の越波流量に関する研究, 港湾技術研究所報告 Vol.9 No.4, pp.3~41, 1970.
- 129) 福田伸夫, 宇野俊泰, 入江功: 防波護岸の越波に関する現地観測 (第2報), 第20回海岸工学講演会論文集, pp.113~118, 1973.

- 130) Allsop, N. W. H., L. Franco, G. Bellotti, T. Bruce and J. Geeraerts: Hazards to people and property from wave overtopping at coastal structures, Coastlines, Structures and Breakwaters, (Proc. Int. Conf.) Inst. Civil. Engrs., Thomas Telford, pp.153~165, 2005.
- 131) 木村克俊, 浜口正志, 岡田真衣子, 清水敏晶: 消波護岸における越波飛沫の飛散特性と背後道路への影響, 海岸工学論文集 第50巻, pp.796~800, 2003.
- 132) 永井荘七朗, 高田彰: 海岸堤防の越波に及ぼす消波堤の効果, 第11回海岸工学講演会講演集, pp.279~286, 1964.
- 133) 鈴木康正, 平石哲也, 望月徳雄, 森川高德: ヒアリングによる護岸の越波被災調査, 海岸工学論文集 第41巻, pp.681~685, 1994.
- 134) 安田誠宏, 平石哲也: 臨海部の複層都市空間におけるMARS法を用いた高精度な浸水解析, 港湾空港技術研究所報告 第43巻 第2号, pp.3~34, 2004.
- 135) 山城賢, 吉田明徳, 橋本裕樹, 久留島暢之, 入江功: 越波実験における風洞水槽内風速の現地風速への換算, 海洋開発論文集 第20巻, pp.653~658, 2004.
- 136) 合田良実: 耐波工学 (港湾・海岸構造物の耐波設計), 鹿島出版会, pp.91~96, 2008.
- 137) 合田良実, 鈴木康正, 岸良安治: 不規則波実験とその特性について, 第21回海岸工学講演会論文集, pp.237~242, 1974.
- 138) 平山克也, 長沼淳也: 越波が生じる港内での静穏度解析に及ぼす越波伝達波の影響について, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.70 No.2, pp.I_761~I_765, 2014.
- 139) 平山克也, 加島寛章, 林 健太郎, 五十嵐雄介: 越波伝達波を含む港内波浪観測データの再現計算, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.69 No.2, pp.I_682~I_687, 2013.
- 140) 松本朗: 数値波動水路による越波伝達波の計算, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.65 No.1, pp.781~785, 2009.
- 140-1) 平山克也・濱野有貴・長沼淳也: 潜堤による港内波の制御に関する基礎的研究, 港湾空港技術研究所報告, Vol.59 No.1, pp.66~114, 2020.
- 141) 近藤淑郎, 佐藤功: 防波堤天端高に関する研究, 北海道開発局土木試験所月報 第117号, pp.1~5, 1964.
- 142) 谷本勝利, 大里睦男: 消波ブロック被覆堤の不規則伝達波について, 第26回海岸工学講演会論文集, pp.309~313, 1979.
- 143) 坂本洋一, 宮地陽輔, 上西隆広, 竹田英章: 傾斜堤の水理機能に関する実験的研究, 土木試験所報告 第82号, 1984.
- 144) 田中則男: 天端幅の広い潜堤の波浪減殺および砂浜安定効果について, 第23回海岸工学講演会論文集, pp.152~157, 1976.
- 145) 近藤淑郎, 竹田英章: 消波構造物, 森北出版, pp.70~114, 1983.
- 146) 沼田淳: ブロック堤の消波効果に関する実験的研究, 第22回海岸工学講演会論文集, pp.501~505, 1975.
- 147) 森平倫生, 柿崎秀作, 合田良実: カーテン防波堤とその特性について, 港湾技術研究所報告 Vol.3 No.1, pp.1~27, 1964.
- 148) 榎木亨監修: 環境圏の新しい海岸工学, フジ・テクノシステム, pp.258, 1999.
- 149) Longuet-Higgins, M.S. and R.W. Stewart: Radiation stress and mass transport in gravity waves with application to surf beats, Jour. Fluid Mechanics Vol.13, pp.481~504, 1962.
- 150) 合田良実: 方向スペクトル波浪によるWave Setupと沿岸流速の設計図表, 海洋開発論文集 第21巻, pp.301~306, 2005.
- 151) 平石哲也, 田所篤博, 藤咲秀可: 港湾で観測された長周期波の特性, 港湾技術研究所報告 Vol.35 No.3, pp.3~36, 1996.
- 152) 沿岸技術研究センター: 港内長周期波影響評価マニュアル, 沿岸技術ライブラリー No.21, pp.1~14, 2004.
- 153) 加藤一正, 中村聡志, 池田直太: 波の連なりを考慮した長周期波の波高推定—波崎海洋研究施設における現地観測にもとづく検討—, 港湾技術研究所報告 Vol.30 No.1, pp.137~163, 1991.
- 154) 平石哲也, 河野信二, 玉城重則, 長谷川準三: 港湾構造物の設計に用いる長周期波の標準スペクトルについて, 海岸工学論文集 第44巻, pp.246~250, 1997.
- 155) 平山克也, 加島寛章, 長沼淳也, 宇野喜之: 拘束波由来の港内長周期波を考慮した港内静穏度解析, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.70 No.2, pp.I_211~I_216, 2014.
- 156) 平山克也, 加島寛章: 風波の波浪諸元に応じた長周期波の標準スペクトル推定法に関する検討, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.70 No.2, pp.I_116~I_120, 2014.
- 157) 沿岸技術研究センター: 港内長周期波影響評価マニュアル, 沿岸技術ライブラリー No.21, pp.48~52, 2004.
- 158) 同上, pp.49.
- 159) 平石哲也, 平山克也, 小澤敬二, 森屋陽一: 長周期波対策工の消波性能について, 港湾空港技研資料No.1205, 16p, 2009.
- 160) 山田晶子, 国栖広志, 爲廣哲也, 小平田浩司, 平石哲也: 石巻港における長周期波の消波対策に関する検討, 海洋開発論文集 第21巻, pp.785~790, 2005.
- 161) 小澤敬二, 森屋陽一, 山本禎寿, 平山克也, 平石哲也: 秋田港における港内長周期波対策施設による静穏度向上効果, 海洋開発論文集 第25巻, pp.653~658, 2009.
- 162) 松野健, 矢野隆博, 葛西弘行, 山本泰司, 平石哲也, 木村克俊: 苫小牧港西港区における長周期波対策工に関する現地観測, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.67 No.2, pp.681~685, 2011.
- 163) 平山克也, 川内清光, 宮里一郎: 消波工に斜めに入射する波の反射率に関する一考察, 土木学会論文集B2 (海岸工学) Vol.67 No.2, pp.I_686~I_690, 2011.
- 164) 田中真史, 松本朗, 半沢稔: 没水型長周期波対策工の消波特性に関する実験的検討, 土木学会論文集B3 (海洋開発) Vol.68 No.2, pp.I_816~I_821, 2012.
- 165) 上田茂, 白石悟, 大島弘之, 浅野恒平: 係岸船舶の動揺に基づく荷役許容波高及び稼働率, 港湾技研資料 No.779, p.44, 1994.

- 166) 平山克也：ブシネスクモデル (NOWT-PARI) を用いた高精度港内静穏度解析法の提案, 港湾空港技研資料 No.1159, 90p, 2007.
- 167) 沿岸技術研究センター：港内長周期波影響評価マニュアル, 沿岸技術ライブラリー No.21, pp.17~18及び付録A-2~付録A-7, 2004.
- 168) 同上, pp.19.
- 169) 日本海難防止協会：海上交通安全に関する基礎的事項の調査研究 その3 -航行船舶の航走波が小型船舶に及ぼす影響の研究, p.83, 1976.
- 170) 日本海運集会所：日本船舶明細書 (2017年版), 2017.
- 171) 塩谷茂明：航走波の推定計算法の比較について, 日本航海学会論文集, 第106号, pp.271~277, 2002.
- 172) 竹内能忠, 七沢謙：今治海岸におけるいわゆる「軍艦波」について, 日本海洋学会誌, Vol.17, No.2, pp.80~90, 1961.
- 173) Ertekin, R. C., W. C. Webster and J. V. Wehausen : Ship-generated solitons, Proc. of the 15th Symposium on Naval Hydrodynamics, pp.347~364, 1985.
- 174) 沿岸開発技術研究センター：浮体構造物技術マニュアル, p.115, 1991.
- 175) 神田勝己, 白石修章, 滝野義和：浮遊式係船岸の動揺特性について, 海洋開発論文集, Vol.2, pp.163~168, 1986.
- 176) 豊田昭三：浮遊式海洋石油備蓄システム, 第4回海洋工学シンポジウム, 日本造船学会, pp.25~50, 1979.
- 177) 木暮健一郎, 鈴木康正, 片桐正彦, 八畝隆：浮防波堤の設計と施工, 海岸工学講演会論文集, Vol.30, pp.435~439, 1983.
- 178) 丸山忠明：旋回式浮体橋の建設, 第14回海洋工学シンポジウム, 日本造船学会, pp.327~334, 1998.
- 179) 大阪市建設局：夢舞大橋工事誌, 大阪市, 2002.
- 180) 宮本卓次郎：浮体式防災基地について, 港湾荷役, 第44巻3号, 港湾荷役機械化協会, 1999.
- 181) 小沢大造, 宮地陽輔, 小泉哲也, 和田耕造, 松下泰弘：浮体式防災基地の整備について, テクノオーシャン2000国際シンポジウム論文集, テクノオーシャンネットワーク, pp.623~628, 2000.
- 182) 沿岸開発技術研究センター, マリンフロート推進機構：大規模浮体構造物の研究報告書, p.638, 1995.
- 183) メガフロート技術研究組合：超大型浮体式海洋構造物 (メガフロート) 平成9年度研究成果報告書, p.350, 1998.
- 184) マリンフロート推進機構：大規模浮体構造物, 鹿島出版会, p.172, 2000.
- 185) メガフロート技術研究組合：メガフロートの空港利用に関する実証的研究 (メガフロート技術研究成果報告書) -フェーズII 成果概要及び平成12年度研究成果-, p.228, 2001.
- 186) 高山知司, 平石哲也, 古川正美, 佐尾邦久, 立野信一郎：一点係留ブイの運動と係船索張力に関する現地観測, 港湾技研資料, No.542, p.38, 1985.
- 187) 岩谷文方, 宮井真一郎, 三品欽治：酒田港における新構造形式による波浪観測について, 海洋開発論文集, Vol.2, pp.97~102, 1986.
- 188) 辻豊次, 森信篤, 山内保文：斜航する船体に働く水圧力について, 船舶技術研究所報告, Vol.6, No.5, pp.15~28, 1969.
- 189) 野尻信弘, 村山敬一：規則波中の2次元浮体に働く漂流力に関する研究, 西部造船会会報, 第51号, pp.131~152, 1976.
- 190) 元良誠三, 小山健夫, 藤野正隆, 前田久明：改訂版船体と海洋構造物の運動学, 成山堂書店, pp.220~224, 1997.
- 191) 運輸省港湾技術研究所・港湾局：浮体工法開発調査報告書, p.171, 1985.
- 192) 土木学会海岸工学委員会：海岸波動, 土木学会, pp.291~429, 1994.
- 193) 三井造船昭島研究所：昭島研究所15年-研究開発の軌跡-, pp.105~130, 1995.
- 194) 日本造船学会海洋工学委員会性能部会：実践浮体の流体力学〈前編〉動揺問題の数値計算法, 成山堂書店, p.291, 2003.
- 195) 伊藤喜行, 千葉繁：浮防波堤の水理に関する近似理論と応用, 港湾技術研究所報告, Vol.11, No.2, pp.15~28, 1972.
- 196) 日本造船学会海洋工学委員会：超大型浮体構造物, 成山堂書店, p.351, 1995.
- 197) 上田茂, 白石悟：係留船舶の動揺計算法とその評価, 港湾技術研究所報告, Vol.22, No.4, pp.181~218, 1983.
- 198) Cummins, W. E. : The impulse response function and ship motions, Schiffstechnik, Bd.9, Heft 47, pp.101~109, 1962.
- 199) 久保雅義, 岡本俊策：岸壁前面係留浮体の遅延関数を用いた時系列解析の精度向上に関する研究, 海岸工学講演会論文集, Vol.34, pp.611~615, 1987.
- 200) 鈴木康正, 諸石一幸：ブイ係留船舶の荒天時の振れ回り運動, 港湾技術研究所報告, Vol.21, No.2, pp.107~150, 1982.
- 201) 上田茂：係岸船舶の動揺解析手法とその応用に関する研究, 港湾技研資料, No.504, p.372, 1984.
- 202) 鈴木康正：一点係留ブイの設計法に関する研究, 港湾技研資料, No.829, p.48, 1996.
- 203) 白石悟, 名里健吾, 川原弘靖：浮棧橋およびプレジャーボートの波浪中動揺特性に関する実験・解析, 港湾空港技術研究所資料, No.950, p.63, 1999.
- 204) 米山治男, 大垣圭一, 津田宗男, 栗原明夫, 平石哲也, 青野利夫：津波が係留船舶に及ぼす影響に関する模型実験と数値計算, 港湾空港技術研究所資料, No.1213, p.27, 2010.
- 205) 沿岸技術研究センター：港内長周期波影響評価マニュアル, 沿岸技術ライブラリーNo.21, p.86, 2004.
- 206) 永井紀彦：ナウファス (全国港湾海洋波浪情報網) による我国沿岸の波浪特性の解明, 港湾技術研究所資料 No.863, p.113, 1997.
- 207) 川口浩二, 櫻庭敏, 藤木俊：全国港湾海洋波浪観測年報 (NOWPHAS2014), 港湾空港技術研究所資料, No.1319, p.126, 2016 他.
- 208) 土木学会編：水理公式集, 昭和46年改訂版, p.533, 1971.